

第77期 事業レポート

平成19年11月1日 ▶ 平成20年10月31日



グループ 企業理念

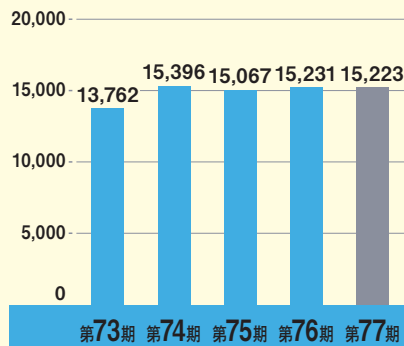
“HONESTY”を貫く真摯なモノづくりで、ミロクグループは世界に誇れる企業を目指します。

明治26年の創業から1世紀を超える歴史と伝統に培われた「匠の技」と、最新技術の融合が生み出すオンリーワンの商品群。美しさや機能、耐久性、そして安全性などの多様で高度なニーズに応えるため、何事に対しても頑なまでに正直な姿勢でモノづくりに取り組む。ミロクグループは“HONESTY”の精神を貫き、世界への飛翔を目指します。

ハイライト情報 (連結)

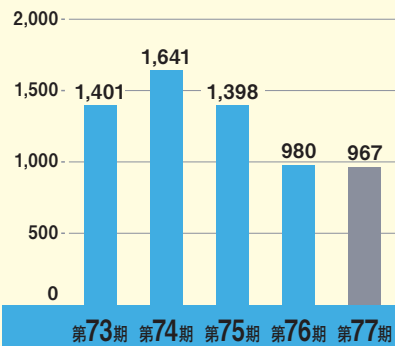
売上高

単位：百万円



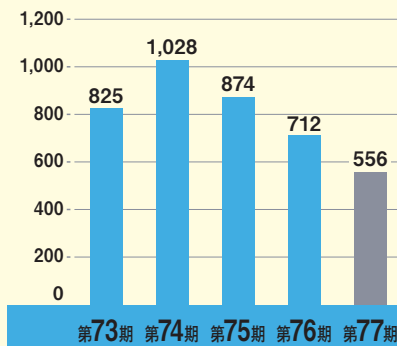
経常利益

単位：百万円



当期純利益

単位：百万円



1. 世界最高水準の銃づくりで培った技術に一層磨きをかけ、応用・展開を図ることにより、顧客にとってさらに価値ある商品を提供していきます。
2. 会社の活動を支えるのは従業員一人ひとりの力であることを心にとめて、従業員にとって働き甲斐があり、持てる力を存分に発揮できる職場を作ります。
3. 法と倫理を遵守し、自然・地域と共生しながら、会社に関わるすべての人や組織にとって価値ある企業であることを目指します。



**グループ各社が
シナジー効果を発揮しながら、
独創性にあふれる
商品・技術の開発に
挑んでいます。**

世界的に屈指の評価を受けるミロクの猟銃。その製造技術を応用展開して、小径で高精度の深孔加工ができるガンドリルマシンなどの工作機械事業や、削り出し成型による純木製自動車用ステアリングハンドルの量産に世界で初めて成功した自動車関連事業など、グループ企業としての多角化を図っています。中核となる猟銃づくりの技術をさらに深めていくと同時に、グループ各社の持つ固有技術のシナジー（相乗）効果によって独創性あふれる「ミロクオリジナル」の商品・技術を開発していきます。

トップインタビュー

Interview

Top



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、
ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
ここに、第77期（平成19年11月1日から平成20年10月31日まで）
の事業レポートをお届けいたします。
今後とも株主の皆様から厚いご指導、
ご支援を賜りますよう、
何卒よろしくお願い申し上げます。

平成21年1月
代表取締役社長 弥勒 美彦

Q 当期のミロクグループの事業動向は？

A 猟銃事業は新製品が好調、
他事業も善戦しました。

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融危機の拡大や、原油をはじめとする原材料価格の高騰などにより、企業収益は減少、設備投資は手控えられ、雇用情勢は悪化するなど、景気は深刻な後退局面に入りました。

日本だけでなく、猟銃事業の主力となる米国市場も厳しい状況が続きました。経済状況の悪化を受けて米国民の可処分所得が減少し、高額商品である上下二連銃の売れ行きが鈍化。一方、ライフルについては需要の落ち込みが少なく、特に本格的な販売が始まった新型ボルトアクションライフル「X-BOLT」は売上に大きく貢献しました。



X-BOLT



工作機械事業は、自動車・金型関連業界の設備投資が慎重になり、機械部門とツール部門は苦戦したものの、加工部門が伸びてほぼ計画通りの収益を達成。自動車関連事業は、主力製品を装着した車種の販売不振が響いて、トップライン（売上）の成長を継続できませんでした。

グループ各社においては、お客様の期待に応えられるより良い製品作りを目指し、独自性の高い製品の開発や品質向上、ま

た生産効率の向上および原価低減への取り組みなどに全力を尽くし、グループ一丸となって業績向上に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は15,223百万円（前期比0.1%減）となりました。また利益面では、経常利益967百万円（前期比1.3%減）、当期純利益556百万円（前期比21.9%減）となりました。

Q 当期において力を注がれたことは？

A 市場ニーズに応え、モノづくりの体制と体質を強化しました。

（株）ミロク製作所を中心とした猟銃事業におきましては、生産体制の強化と改善に力を尽くしました。まず、前期（第76期）の課題であった「X-BOLT」の生産ラインを確固たるものとし、米国ブローニング社の信頼に応えました。また、3年目に入った生産革新活動「MPI-30」は確実に成果を上げており、社員一人ひとりが知恵を絞って工数の削減に取り組む姿勢が定着しました。高知テクノパークに建設した（株）香北ミロク加工センターも機械設備や生産品目が整い、本格的な生産に乗り出しています。

ミロク機械（株）が展開する工作機械事業におきましては、安定した収益の積み上げを目指しました。機械部門では顧客層

の拡大を促進する廉価な汎用機の開発、ツール部門では新工場の生産能力を最大限に発揮できるような需要獲得へのアプローチ、加工部門では営業体制の強化を推し進めました。また、海外企業との提携も意欲的に行い、米国のガンドリルマシン大手、スターカッター社と共同開発した「ミロク★スター ガンドリル」は、市場から高い評価を受けています。

（株）ミロクテクノウッド（持分法適用関連会社）による自動車関連事業では、トヨタ生産方式に基づいて5S活動を推進し、徹底したムダの排除による原価の低減を図ってまいりました。その結果、トップラインの減少分を補うようなコスト削減を達成することができました。

Q 来期の展望をお聞かせください。

A 各事業で厳しい環境に打ち勝つ
様々な努力を続けます。

来期（第78期）は、世界的な景気衰退が本格化する上に円高基調も続き、厳しい逆風が吹き荒れる年になると覚悟しています。特に猟銃事業は、冷え込んだ米国市場の影響をダイレクトに受けるでしょう。しかし、光明がないわけではありません。ビジネスパートナーであるブローニング社は、当社製品の販売促進に最大限の努力を払うと表明しています。その期待に応えるべく、市場ニーズの微妙な変化にも迅速に対応できる柔軟な生産体制の構築に全力で取り組む所存です。

工作機械事業に関しては、年度上半期の受注はある程度確

保していますので、下半期が勝負どころと言えます。設備投資の落ち込みが予想されるなか、機械部門とツール・加工部門の補完関係を生かして収益維持に努めます。海外展開に関しては、ヨーロッパへの進出を大きなテーマに置いています。

自動車関連事業に関しては、自動車業界全体の不振によってトップラインの伸びは期待できません。より一層のコスト削減に取り組む一方で、当社の誇る木工技術を純木製ステアリングハンドル以外の製品へ展開する活動を続けます。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A 生き残りをかけて、
思い切った改革を敢行します。

これから産業界全体が冬の時代を迎えるでしょう。それを悲観的に捉えるのではなく、腰を据えて思い切った改革を行う絶好のチャンスだと考えています。

その一つが、徹底したムダの排除。資材調達から作業現場に至るまで、省くべきムダはまだまだ散在しています。自動車関連事業で培ってきた「トヨタ生産方式」の考え方をミロクグループ全体に広げ、現場の改善を強力に推し進める構想を練っています。

また、企業の内部統制に力を入れてリスクの削減に努めるとともに、業務プロセスの「見える化」を推進することで不合理な部分の是正にも取り組んでいきます。

このように意欲的な改善を図ることで、競争力を向上させる企業体質の強化ならびに、株主の皆様から信頼していただける健

全な会社経営を目指します。

来期は、平成22年以降に勝ち組となって生き残るための正念場と肝に銘じ、グループの総力を結集して事業の強化に力を注いでまいります。株主の皆様のより一層のご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



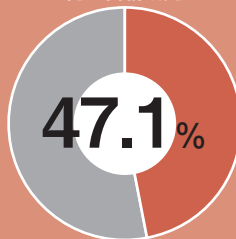
猟銃事業

主力となる米国市場は、原油高に続いて金融危機が勃発し、厳しさを一層増しています。その影響を受けて、付加価値の高い上下二連銃の販売が落ち込みました。しかし、既存品の値引きや新製品の投入などによって販売数量は前期を上回り、増収・増益を達成しました。その結果、売上高は7,182百万円（前期比13.3%増）、営業利益は125百万円となりました。

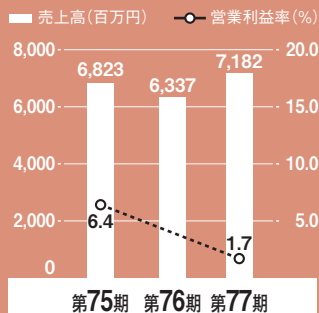
来期は主力の米国市場の低迷に加え、比較的安定していた欧州市場にも陰りが見え始めるなど、厳しい状況が見込まれます。収益の回復を目指し、当社グループの強みである高品質・高付加価値製品の開発と、「MPI-30」活動を中心に据えた原価低減活動を推進し、グループ一丸となって利益率の向上に努めます。

売上高
7,182百万円

売上高構成比



売上高・営業利益率の推移



： 事業紹介

：ショットガン：

ミロク製作所がブローニング社と提携してOEM生産する猟銃は、『BROWNING』のブランドを冠して、世界の市場に送り出されます。ショットガン（散弾銃）は、単発から上下二連、ポンプアクションまでラインアップも豊富。なかでも上下二連銃は、高級クラスのカテゴリーでは米国内で40%程のシェアを占めるヒット商品です。日本国内向けには、自社ブランド「B.C.MIROKU」の名で販売されています。



：ライフル：

ブローニング社と提携して最初に量産を開始したのが、22口径のレバーアクションライフル銃でした。現在もレバーアクションならびにボルトアクションのライフル銃を製造しています。『BROWNING』ブランドだけでなく、世界的ブランド『WINCHESTER』が誇る19世紀後期のライフル銃を、ミロクの技術によって現代に蘇らせました。西部開拓時代のスピリットを受け継ぐ名品として、高い評価を受けています。



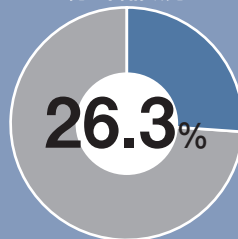
工作機械事業

主要顧客である自動車・金型関連業界の設備投資は、米国経済の景気後退などにより、慎重な投資傾向で推移しました。その影響で主力の機械部門およびツール部門は若干の減収・減益となりました。しかし、加工部門は営業努力が奏功し、増収・増益を達成しました。その結果、売上高は4,002百万円（前期比4.1%減）、営業利益は828百万円（前期比7.0%減）となりました。なお、売上高につきましては、セグメント間の内部売上高16百万円を含んでいます。

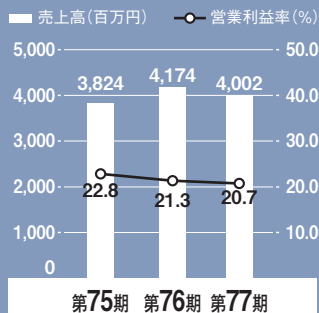
来期は主力の自動車・金型関連業界の設備投資停滞による受注減が予想されます。それに歯止めをかけるべく営業活動を強化するとともに、製造および設計部門の効率化を推進して原価低減を図ります。

売上高
4,002百万円

売上高構成比



売上高・営業利益率の推移



： 事業紹介

： 機械部門：

金属などに深い孔を真っ直ぐにあけるガンドリルマシンを自社で商品化し、自動車関連業界や金型業界などの精密な孔加工を必要とする企業へ納入。北米や東南アジアなどの世界市場にも進出しています。また、半導体業界などへは精密研磨を行うラッピングマシンを供給しています。



ガンドリルマシン



ラッピングマシン

： ツール部門：

ガンドリルマシン用の各種ドリル類、ラッピングマシン用の各種定盤やラッピングパウダー類といった消耗品の販売を行っています。また、ドリルやリーマ、ロータリーバーといった一般的な超硬切削工具も販売しています。



ガンドリル

： 加工部門：

自社のガンドリルマシンを使った孔あけ加工を請け負っています。相模原、柏、名古屋にある4工場において、高精度・高効率、そしてコストパフォーマンスに優れた深孔加工と、孔加工に付随する全加工に対応します。



自動車関連事業

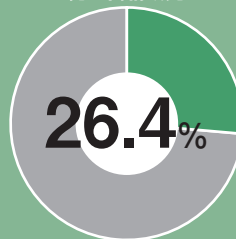
自動車市場のニーズは、ガソリン価格高騰の影響を受けて、大型車から小型車などの低燃費車へ移行しています。それにより、主力の純木製ステアリングハンドルおよびシフトノブを搭載した高級車種の販売台数が落ち込み、販売数量は前期を下回りました。その結果、売上高は4,028百万円（前期比15.5%減）、営業利益は27百万円（前期比52.0%増）となりました。

来期は自動車産業全体で減産の動きが見られるなど、非常に厳しい状況が見込まれます。そのなかで、自工程完結による品質の作り込みの確立、徹底したムダの排除による原価の低減に取り組むとともに、新製品の開発強化に努めます。

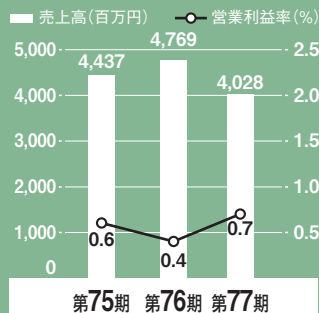
※自動車関連事業は、持分法適用関連会社である（株）ミロクテクノウッドを中核としており、同事業の発展・成長は、主に持分法投資利益の増加を通じて、当社連結業績に反映されます。

売上高
4,028百万円

売上高構成比



売上高・営業利益率の推移



： 事業紹介

： 純木製ステアリングハンドル

猟銃製造から派生した木工技術が認められ、ミロク製品がトヨタ自動車に純木製ステアリングハンドルとして採用されました。世界最高水準のさまざまな規格テストに合格し、量産体制も確立。独自の技術により、フィンガーレストなどの複雑な3次元曲面も自由に造形することが可能です。



ウォールナット
(くるみ)製



メイプル
(かえで)製

： 自動車内装木工パーツ

トヨタ自動車との関わりは1997年までさかのぼります。長年培ってきた木工技術をベースに、ひとつとして同じものがない自然素材を使い、可能な限り均質な工業製品を作る生産体制を実現。自動車用シフトノブなどで高い評価を得るに至りました。



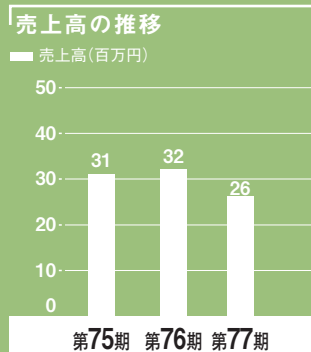
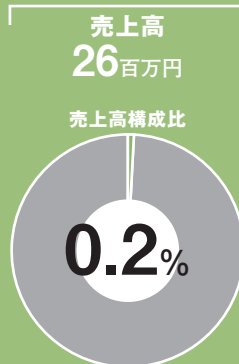
シフトノブ



その他事業

銃づくりの含浸技術を屋外建築用木材に応用したミロモックル事業は、新しい技術の展開と関東・関西圏を中心とした営業活動を行っております。しかし、公共施設などへの予算削減ならびに販売チャネルの開拓に苦戦し、引き続き厳しい状況が続きました。その結果、売上高は26百万円、営業損失は12百万円となりました。

今後は、一般住宅関連などの民需部門へのアプローチをより一層積極的に行うほか、端材を活用した製品などの提案営業にも力を入れます。



:: 事業紹介

:: ミロモックル事業 ::

主な技術は、薬剤を木材に浸透させ熱処理をすることによって、互いに重し木材内部で定着させます。その結果、木材の狂いや腐食を防止するという含浸技術。猟銃用木材の耐候性研究から生まれたこの技術を屋外建築用木材に応用し、自然素材の風合いを活かしたまま、長期的に維持することを可能にしたのが「ミロモックル製品」です。環境や人体に無害な薬剤を使用し、地球環境に配慮した休憩施設や、心やすらぐ「ぬくもりの広場」等で幅広く親しまれています。今後は、一般住宅の基礎部分への応用など、建築分野での展開に期待が高まっています。



京都府長岡京市／
八条ヶ池



広島県豊田郡本郷町／
中央森林公園・三景園

Column コラム ミロクが遵守する「SAAMI規格」とは？

「SAAMI（サアミ）」とは、1926年にアメリカ政府の要請を受けて設立された、アメリカの銃器・弾薬製造業協会のこと。国際的に認知される銃器や弾薬の規格作成をはじめ、銃器の安全な使用の促進、クリーンで健全な生態系を目指した科学的なアプローチなどに取り組んでいます。ビジネスパートナーである米国ブローニング社が「SAAMI」に所属していますので、ミロクの猟銃は同協会が定める厳格なガイドラインに従って作られ、アメリカで流通しているのです。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当連結会計年度末 (平成20年10月31日)	前連結会計年度末 (平成19年10月31日)	科目	当連結会計年度末 (平成20年10月31日)	前連結会計年度末 (平成19年10月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	6,964,060	6,661,798	流動負債	5,674,969	5,471,554
現金及び預金	1,087,454	976,532	支払手形及び買掛金	2,037,104	2,303,407
受取手形及び売掛金	2,830,513	2,877,602	短期借入金	1,800,000	1,800,000
たな卸資産	2,720,776	2,434,962	1年以内償還予定の社債	200,000	—
繰延税金資産	137,731	93,693	1年以内返済予定の長期借入金	500,000	300,000
その他	210,061	301,859	未払法人税等	243,733	79,224
貸倒引当金	△22,476	△22,851	繰延税金負債	258	—
固定資産	8,798,308	9,375,407	賞与引当金	155,117	135,239
有形固定資産	5,242,803	5,509,402	役員賞与引当金	29,350	34,600
建物及び構築物	1,550,755	1,634,404	その他	709,405	819,084
機械装置及び運搬具	1,917,172	2,011,313	固定負債	1,963,412	2,674,702
土地	1,568,295	1,568,295	社債	—	200,000
建設仮勘定	49,138	44,913	長期借入金	700,000	1,200,000
その他	157,441	250,475	繰延税金負債	156,700	295,531
無形固定資産	58,556	74,212	退職給付引当金	927,105	825,237
その他	58,556	74,212	役員退職慰労引当金	179,606	153,932
投資その他の資産	3,496,949	3,791,792	負債合計	7,638,382	8,146,257
投資有価証券	2,362,430	2,586,089	純資産の部		
繰延税金資産	460,753	449,286	株主資本	7,906,909	7,486,370
その他	817,964	910,623	資本金	863,126	863,126
貸倒引当金	△144,199	△154,207	資本剰余金	519,432	519,289
資産合計	15,762,368	16,037,205	利益剰余金	6,597,660	6,174,819
			自己株式	△73,310	△70,864
			評価・換算差額等	211,796	397,494
			その他有価証券評価差額金	211,922	397,172
			為替換算調整勘定	△125	321
			少数株主持分	5,280	7,083
			純資産合計	8,123,986	7,890,948
			負債・純資産合計	15,762,368	16,037,205

連結財務諸表

Check point

資産

資産合計は前連結会計年度末に比べて274,836千円減少し、15,762,368千円となりました。これは、主にたな卸資産の増加285,814千円等があったものの、有形固定資産の減少266,599千円、投資有価証券の減少223,659千円等によるものであります。

Check point

負債

負債合計は前連結会計年度末に比べて507,875千円減少し、7,638,382千円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金の減少266,302千円、長期借入金の減少300,000千円（1年以内返済予定の長期借入金を含む）等によるものであります。

Check point

純資産

純資産合計は前連結会計年度末に比べて233,038千円増加し、8,123,986千円となりました。これは、主に利益剰余金の増加422,841千円、その他有価証券評価差額金の減少185,250千円等によるものであります。

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自 平成19年11月1日 至 平成20年10月31日)	(自 平成18年11月1日 至 平成19年10月31日)
売上高	15,223,805	15,231,995
売上原価	12,885,140	12,906,361
売上総利益	2,338,664	2,325,633
販売費及び一般管理費	1,633,357	1,639,460
営業利益	705,307	686,173
営業外収益	327,567	348,805
受取配当金	22,552	26,950
持分法による投資利益	177,997	250,458
負ののれん償却額	243	2,725
廃品売却益	37,125	—
その他	89,647	68,671
営業外費用	65,463	54,360
支払利息	48,682	40,550
賃貸費用	7,999	9,522
その他	8,782	4,287
経常利益	967,410	980,617
特別利益	19,292	238,332
貸倒引当金戻入益	10,383	11,453
投資有価証券売却益	—	54,796
保険金収入	6,955	151,317
保険解約差益金	1,728	18,165
その他	225	2,600
特別損失	73,304	160,447
固定資産除却損	4,392	13,240
減損損失	16,940	16,312
投資有価証券売却損	7,774	—
投資有価証券評価損	44,196	77,453
役員弔慰金	—	40,000
その他	—	13,440
税金等調整前当期純利益	913,399	1,058,503
法人税、住民税及び事業税	429,421	354,098
法人税等調整額	△71,726	△8,096
少数株主利益又は損失(△)	△459	298
当期純利益	556,164	712,201

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自 平成19年11月1日 至 平成20年10月31日)	(自 平成18年11月1日 至 平成19年10月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,154,921	570,463
投資活動による キャッシュ・フロー	△547,844	△742,785
財務活動による キャッシュ・フロー	△485,132	223,425
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△11,021	△453
現金及び現金同等物の 増加額	110,921	50,649
現金及び現金同等物の 期首残高	976,532	925,882
現金及び現金同等物の 期末残高	1,087,454	976,532

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて110,921千円増加し、1,087,454千円となりました。

Check point

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は1,154,921千円（前連結会計年度比584,457千円増加）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益913,399千円、減価償却費775,296千円等であり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額285,948千円、仕入債務の減少額253,321千円等であります。

Check point

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は547,844千円（前連結会計年度比194,940千円減少）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出684,582千円、利息及び配当金の受取による収入54,805千円等によるものであります。

連結株主資本等変動計算書 (自 平成19年11月1日 至 平成20年10月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本				評 価 ・ 換 算 差 額 等			少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計	
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定			評価・換算 差額等合計
平成19年10月31日残高	863,126	519,289	6,174,819	△70,864	7,486,370	397,172	321	397,494	7,083	7,890,948
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△133,322		△133,322					△133,322
当期純利益			556,164		556,164					556,164
自己株式の取得				△2,709	△2,709					△2,709
自己株式の処分		143		263	407					407
株主資本以外の項目の連結会計年度中の 変動額(純額)						△185,250	△447	△185,698	△1,803	△187,501
連結会計年度中の変動額合計	—	143	422,841	△2,446	420,539	△185,250	△447	△185,698	△1,803	233,038
平成20年10月31日残高	863,126	519,432	6,597,660	△73,310	7,906,909	211,922	△125	211,796	5,280	8,123,986

単体財務諸表

貸借対照表

(単位：千円)

科目	当事業年度末 (平成20年10月31日)	前事業年度末 (平成19年10月31日)
資産の部		
流動資産	2,477,908	2,707,900
固定資産	5,729,859	6,191,094
有形固定資産	2,108,908	2,184,007
無形固定資産	53	718
投資その他の資産	3,620,897	4,006,368
資産合計	8,207,767	8,898,994
負債の部		
流動負債	2,556,529	2,350,972
固定負債	933,801	1,769,115
負債合計	3,490,331	4,120,087
純資産の部		
株主資本	4,511,661	4,395,602
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	531,434	531,290
利益剰余金	3,162,573	3,044,212
自己株式	△45,473	△43,027
評価・換算差額等	205,775	383,304
その他有価証券評価差額金	205,775	383,304
純資産合計	4,717,436	4,778,907
負債・純資産合計	8,207,767	8,898,994

損益計算書

(単位：千円)

科目	当事業年度 (自 平成19年11月1日 至 平成20年10月31日)	前事業年度 (自 平成18年11月1日 至 平成19年10月31日)
営業収益	634,834	668,425
営業費用	389,239	344,966
営業利益	245,594	323,459
営業外収益	111,651	114,498
営業外費用	50,027	41,475
経常利益	307,218	396,482
特別利益	1,333	208,616
特別損失	50,775	134,119
税引前当期純利益	257,776	470,979
法人税、住民税及び事業税	26,195	36,805
法人税等調整額	△20,102	36,943
当期純利益	251,683	397,230

株主資本等変動計算書 (自 平成19年11月1日 至 平成20年10月31日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成19年10月31日残高	863,126	531,290	3,044,212	△43,027	4,395,602	383,304	4,778,907
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△133,322		△133,322		△133,322
当期純利益			251,683		251,683		251,683
自己株式の取得				△2,709	△2,709		△2,709
自己株式の処分		143		263	407		407
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						△177,529	△177,529
事業年度中の変動額合計	—	143	118,361	△2,446	116,058	△177,529	△61,470
平成20年10月31日残高	863,126	531,434	3,162,573	△45,473	4,511,661	205,775	4,717,436

会社概況

(平成20年10月31日現在)

会社概要

社 名：株式会社ミロク
Miroku Corporation

所 在 地：高知県南国市篠原537番地1

設 立：1946(昭和21)年7月5日
2003(平成15)年5月1日持株会社化

資 本 金：863,126千円

従 業 員 数：560名(連結対象子会社含む)

事 業 内 容：**猟銃事業**
猟銃の製造および販売

工作機械事業
深孔加工機等工作機械・工具の製造
および販売

自動車関連事業
自動車用部品の製造および販売

その他事業
木工製品の加工および販売

役 員

代表取締役社長：弥勒 美彦

代表取締役専務：田中 勝久

取 締 役：四手井 洋一

取 締 役：荒井 瑞夫

取 締 役：チャールズ・グブラメント

取 締 役：近藤 久視

取 締 役：堀川 洋幸

取 締 役：ジャン・ピエール・ワレマック

常 勤 監 査 役：深見 裕夫

監 査 役：山本 吾一

監 査 役：加藤 康彦

監 査 役：大西 俊郎

連結子会社

株式会社ミロク製作所
株式会社ミロク精工
株式会社香北ミロク
株式会社梶原ミロク
ミロク機械株式会社
MIROKU MACHINE TOOL, INC.
株式会社馬路ミロク

関連会社

株式会社ミロク工芸
ニッサンミロク株式会社
株式会社ミロクテックウッド
T&M USA, INC.
株式会社特殊製鋼所
株式会社ミロク興産

※ホームページのご案内

企業・製品・採用情報のほか、投資家情報コーナーも充実させ、財務データや決算短信などを公開しています。銃づくりの工程を分かりやすく紹介した「バーチャル工場見学」も好評です。ぜひご覧下さい。

URL <http://www.miroku-jp.com/>



株式情報

(平成20年10月31日現在)

株主メモ

株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,027,209株
株主数	1,326名

大株主(上位10名)

	持株数 (千株)	出資比率 (%)
ブローニング・アームズ・カンパニー (常任代理人 野村證券株式会社)	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
株式会社高知銀行	665	4.4
株式会社西島製作所	577	3.8
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	560	3.7
ミロク共栄会	543	3.6
日油株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0

株式分布状況

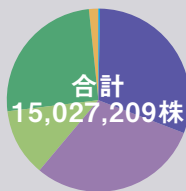
所有者別株主数

■ 政府・地方公共団体	1名 (0.08%)
■ 金融機関	14名 (1.05%)
■ 金融商品取引業者	9名 (0.68%)
■ その他の法人	74名 (5.58%)
■ 外国法人等	8名 (0.60%)
■ 個人・その他	1,219名 (91.93%)
■ 自己名義株式	1名 (0.08%)



所有者別持株数

■ 政府・地方公共団体	45,600株 (0.30%)
■ 金融機関	4,591,623株 (30.56%)
■ 金融商品取引業者	30,142株 (0.20%)
■ その他の法人	4,539,673株 (30.21%)
■ 外国法人等	1,802,845株 (12.00%)
■ 個人・その他	3,797,934株 (25.27%)
■ 自己名義株式	219,392株 (1.46%)



事業年度：毎年11月1日から翌年10月31日まで
基準日：定時株主総会 10月31日
剰余金の配当 期末 10月31日
中間 4月30日

株主名簿管理人：〒100-0005
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：〒530-0004
(お問い合わせ先) 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話料無料)

特別口座管理機関：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先：〒530-0004
大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話料無料)

公告方法：電子公告の方法により行います。
ただし、やむを得ない事由により
電子公告をすることができない場合は、
日本経済新聞に掲載します。
電子公告掲載URL
<http://www.miroku-jp.com/>

単元株式数：1,000株

証券コード：7983

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行
株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)
0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

 株式会社ミロク
MIROKU

高知県南国市篠原537番地1
TEL:088-863-3310



このレポートは、環境に配慮し、
大豆油インキを使用しております。